



恕の心



令和4年9月14日 校長 廣瀬 真樹

第76回丸内中学校運動会！



前日の台風・雨で開催を心配した運動会……皆さんの頑張りに天も味方し、最高の形で終わることができました。

開会式では3人の団長がそれぞれの思いを、自分の言葉で語り、宣誓していました。その言葉通り、当日はまさにこれまでの取り組みを凝縮した時間でした。私が嬉しかったのは、団活や競技の練習の時から「大丈夫、ドンマイ！」「一緒に頑張ろう」「いい感じ」という言葉があふれていたことです。それに加えて、どの団のパフォーマンスも本当に輝き、はじける笑顔が印象的でした。締めくくりの解団式……全力で取り組んだからこそその笑顔、涙……後輩たちが必ずそれを感じとり受け継いでくれるはずだと強く感じました。

閉会式で「他の団に、先輩に、後輩に、仲間に、先生に、学校に……すべてのことに感謝してください」と話をさせていただきました。感謝のパワーはこの後の学校生活を充実したものにするはずです。2学期の合唱コンクール、文化祭などの行事はもちろん、普段の学校生活が温かい心、恕の心のあふれた、最高のものになることを確信できた運動会でした。みなさん本当にお疲れ様でした。そして

感動をありがとうございました！

物は見下ろすと欠点がよく見えるようだ
見上げるようにすると長所が見えてくる。
見下ろして生きるのは不平不満・文句の生き方
見上げて生きるのは感謝の人生だと思う

帖佐 美行(ちょうさ よしゆき)

帖佐美行氏は鹿児島県出身の彫金家。彫金とは「タガネ」と呼ばれる鋼のできた工具で金属の表面に彫刻を施していく技法のことを言います。この言葉は「自然に、ひれ伏さなければ、自然は、その一番美しいところを見せてくれない」という言葉に続くものです。自然と対峙するときの心境を物語っているのですが、私は人間関係にも言えるものだと思います。

人間は誰しも他人に対して不満を持ったり、誰かの文句を言ったり、「僕はこんなにやっているのに……」ということは当然あると思います。ただ時には、少しだけ見方を変えたり、少しだけ冷静に自分の姿を見ることが大切なのだと思います。ほんの少しだけでいいのだと思います。「ありがとう」の反対は「あたりまえ」。感謝の生き方は素敵です。しかし……分かっていてもそれを実行するのはなかなか難しいものです。



「ありがとう」のあふれる一日……目指したいです。

校長コラム

中秋の名月

9月10日(土)は中秋の名月の日でした。私も夜、家の前からしっかり見ました。中秋の名月(十五夜)とは文字通り「中秋に見ることができる美しい月(満月)」のことを指します。中秋とは旧暦の8月15日を意味する言葉です。旧暦の季節では7月～9月の時期が秋に該当します。そして8月15日は7月～9月期間のちょうど真ん中、つまり秋の中日なので「中秋」と呼ばれています。忙しい日々の中ですが、だからこそ自然の美しさに少しだけ心をゆだねる、そんな心の余白が必要だと感じた時間でした。



